

Abstract

国連ハイチ安定化ミッションと自衛隊

—統合活動・タスク策定センターと民生協力活動を中心に—

浦上法久（陸上自衛隊 3等陸佐）

MINUSTAH では震災後、JOTC という民軍連携を目的とした組織が、UNPKO として初めて設置された。UN は、UN-CIMIC の基本的概念と、多機能型ミッションにおける実際的な民軍関係と活動について、一歩進んだ概念整理を試みた。JOTC は、セキュリティとエンジニアに関してクラスターに類した調整の場を与え、支援提供を可能とし、既存のクラスター制度で処理しきれない問題—セキュリティとエンジニアに関する軍事的資産の使用—を処理するうえで、クラスター制度を補完する役割を果たしている。

JOTC の設置により、自衛隊の活動は現地の人道及び復興支援ニーズを直接反映するものとなった。こうした制度をもつ UNPKO の中で、自衛隊が直接被災国住民を支援する機会を得て能力を発揮することは、国際平和協力活動と外交を一体のものとして積極的に行うという我が国の安全保障の基本方針にもかなうものである。

『国際安全保障』第38巻第4号（2011年3月）57—75 ページ。